

キャラクター名

プレイヤー名

シンドローム	ハヌマーン		ワークス	UGN支部長A	カヴァー	藤宮剣術道場師範代
	ハヌマーン					
オプション			年齢	20	性別	男
覚醒	素体	衝動	破壊	初期侵食率	32	%
出自	組織の一員	経験	純粋培養	邂逅	自身	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	34
肉体	2	1	3			6	行動値	6
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	6
精神	2	0	0			2	戦闘移動	11
社会	2	0	0			2	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃			RC			交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転：二輪	2		芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
妖刀		-1	4	10		
		0				
秘剣「瞬花終刃」60~79		0	4	6		1+2+3++4+5+8
		0				CT値：8 コスト：15 装甲無視

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
ウェポンケース	
カジュアル	
携帯電話	
フォーマル	
着物（制服相当）	
アクセサリー	
バイク	

合計装甲： 0 合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
Dロイス：《奇妙な隣人》	P	N		
育ての親	P 尊敬	N 劣等感		
今咲小夢	P 信頼	N 食傷		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
オリジン：ヒューマン	1	2	マイナー	至近	自身	自動	R B	
効果： 達成値+Lv。								
コンセントレイト：HM	2	2	メジャー	-	-	自動	-	
効果： CT値-Lv。								
吠え猛る爪	1	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果： 装甲無視。攻撃力-[5-Lv]。								
一閃	1	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果： 全力移動後、白兵攻撃。離脱不可。								
電光石火	1	3	メジャー	-	-	-	-	
効果： ダイス+[Lv+1]個。判定後、HPを-1d10。								
疾風迅雷	1	3	メジャー	-	-	対決	ピュア	
効果： ドッジ禁止。1シナリオLv回。								
スピードフォース	1	4	メジャー	至近	自身	自動	ピュア	
効果： イニシアチブにメインプロセスを行う。1シナリオにLv回。								
マシラの如く	2	5	メジャー	-	単体	対決	80%↑	
効果： 攻撃力に+[Lv×10]。1シナリオ一回								
軽功	★		常時	至近	自身	自動成功		
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

藤宮剣術道場の三代目師範。  
先代、先々代の師範が謎の失踪を遂げたため、幼いながら彼が担ぎ出された。  
だが、本人はまだ未熟なので師範代を名乗っている。  
実は、道場には地下があり、そこがUGN門崎市支部となっている。

幽斗とはある組織で実験の素体として育つたために外界に触れることがなかった。  
その組織では人工的にレネゲイドビーイングを作る研究をしており、当時その組織に協力していた真唯が提供した、体組織の一部を移植された。  
しかし移植しても変化が何も起こらなかったため、失敗作として処分されそうになる。

そんな幽斗を助けたのが先々代の師範だった。以降息子として藤宮家に引き取られる。  
その後はUGNでレネゲイドコントロールを学び、先々代から剣術を学んでいった。

コードネームの“折れぬ剣”とは、先々代がUGNの訓練を終えた幽斗に対して、「何があろうと、諦めずに貫き通すもの」という意味を込めてつけた。

普段は着物で生活をしているが、UGNとして動くときはサングラスにスーツを着る。  
これは、日常と非日常とを明確に区別し、自分の中で切り替えるためのスイッチ、儀式のようなもの。

右のわき腹に「4」の入れ墨が入っている。  
処分される時に記憶操作を受けたらしく、組織にいた時のことはほとんど覚えていない。